

碧南市立鷺塚小学校

< 10月8日 >

国松正孝先生をお招きして、1年生の図画工作科の模範授業を見せていただきました。

国松先生は「絵を描くときは『見る』ではなく、『見つける』が大切です。眺めているだけではだめです。このくすのきは100年以上の間に、雨や風に打たれて育ってきたので、でこぼこしている。どんな小さなでこぼこでも見つけて描いていくんですよ。」と児童に話をされ、授業を進めていかれました。



国松先生は、くすのきのでこぼこしているところを長い棒でなぞりながら見せていかれました。児童は、名前ペンでいきなり描いていくことを知ると「えー、いきなり描くの？」と不安そうでしたが、「間違えてもそのまま続けて描いていいんだよ。自分を信じて描こう。」と国松先生が言われると一斉に描きはじめました。

国松先生の授業から次のことを学びました。

- ・最初に画用紙の下に手を置いて印をつけ、木の幅を決めてから始める。
- ・線は下から上へ描いていく。
- ・でこぼこを見つけ、出たり入ったりしながら描く。
- ・途中で紙からはみ出しても良い。はみだした線は、また紙に戻ってくるからそれも描く。
- ・後ろに隠れている木もあるので重なるように描く。
- ・ゆっくりゆっくり（かたつむりの速さで）描く。